

耳鼻咽喉科専門研修プログラム

診療科の特色

信州大学医学部耳鼻咽喉科学教室は1949年(昭和24年)に開講しました、「よき臨床医の育成」と「疾患の解明や治療法につながる基礎研究」を目標に、すでに多くの同門会員が長野県内はもとより広く全国で活躍しております。また、今までの多くの研究成果は国際的にも広く認められております。医学の急速な進歩に伴い医学はより高度で専門的な分野に細分化されてきました。

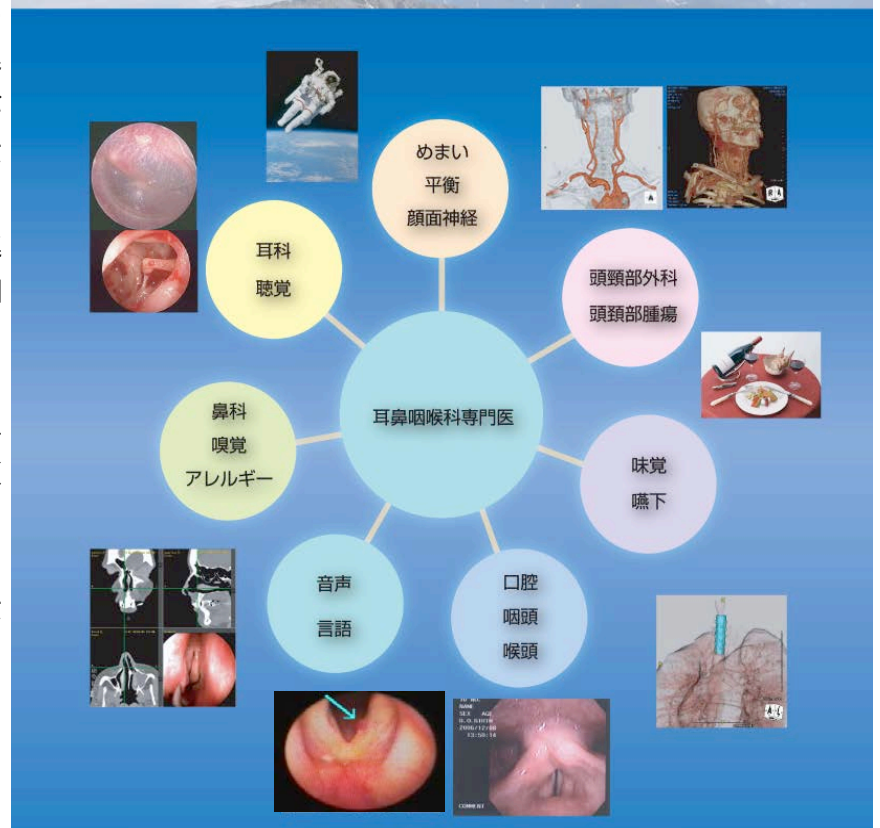
患者のニーズは専門的な診断、治療にあります。このような医学の進歩の中で常に新しい診断法や治療法を積極的に取り入れていくためにスタッフ一同、日夜奮闘しています。

我々とともに21世紀の耳鼻咽喉科をリードしましょう！



21世紀は感覚器の時代！

<信州大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科はサブスペシャリティが豊富です>
Department of Otorhinolaryngology, Shinshu University School of Medicine, Matsumoto 390-8621 JAPAN



専門研修の魅力

耳鼻咽喉科専門医になるための基礎から応用まで、幅広い疾患を経験します。

耳鼻咽喉科が担当する領域は、非常に幅が広く、また各領域での研究も盛んであり、深い知識が要求されます。また、内科的な疾患のみならず、治療には手術も必要な場合があります、その適応から術式の選択、実際の手術と周術期管理、外来での経過観察も重要です。研修段階に合わせたカリキュラムによって、患者さんが必要とする、知識と技能、思いやりを持った専門医となりましょう。

耳鼻咽喉科専門医の理念と使命

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格の涵養につとめ、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の疾患を外科的・内科的視点と技術をもって治療する。他科と協力し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、さらなる医療の発展にも寄与することを耳鼻咽喉科専門医の使命とする。

(日本耳鼻咽喉科学会 専門研修プログラム整備基準より)

信州大学耳鼻咽喉科 専門研修プログラムの目的

信州大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムでは、耳鼻咽喉・頭頸部領域において、標準的かつ良質で安全な診療を提供することができる専門医の育成を行うことを目的とする。そのために、小児から老人までのさまざまな年齢層の患者、急性期から慢性期までの疾患を取り扱い、幅広い臨床能力が身につくよう研修を行う。また、それぞれの疾患に関して科学的な考察能力が習得できる研修を行う。

研修期間:平成30年4月1日～平成34年3月31日

【プログラム概要】

信州大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムでは、専門研修基幹病院である信州大学病院と、地域の中核医療をになう病院群(連携施設A:長野赤十字病院、信州上田医療センター、諏訪赤十字病院、飯田市立病院)、地域医療を担う病院群(連携施設B:長野松代総合病院、長野市民病院、篠ノ井総合病院、相澤病院、安曇野赤十字病院、まつもと医療センター、岡谷市民病院)、および東京での専門病院(連携施設C:国際医療福祉大学 三田病院)の合計13施設での研修を行うことが可能です。

これら研修施設の特徴を活かした耳鼻咽喉科研修を行います。これにより、専門医制度機構により示されている研修到達目標や症例経験基準を満たす研修が可能になります。地域医療や都市部での医療、大学病院での研修で、幅広い視野を持った専門医を養成します。

【プログラムの特徴】

本プログラムは耳鼻咽喉科専門医に必要な標準的な診療ができる専門医の育成を目的としています。基幹病院である信州大学附属病院では難易度の高い疾患を経験できます。それらの経験症例を通じて標準的な医療のみでなく、最先端医療も経験、研修できることが大きな特徴だと考えます。また、長野県内の研修病院、東京都内の連携施設をローテーションすることで、地域医療から、都会での専門医療まで、幅広く経験できるのが特徴です。また、専門医として疾患の本質を見極めた治療が出来るように、常に科学的考察ができるような能力を習得できるのも本プログラムの特徴であるといえます。

このような背景から、本プログラムの特徴は、

- ① 研修可能な疾患構成のバランスが保たれている。
- ② ローテーションでcommon diseaseから複雑な病態、稀な症例まで学ぶ機会が豊富。
- ③ 最先端の研究に裏付けられた医療を学ぶことが可能。
- ④ 大学院と同時進行の研修も選択でき、臨床と結びついた基礎研究の経験も可能。

基幹病院での研修

信州大学医学部附属病院からはじまる研修では、耳鼻咽喉科の基本手技、検査、診療技術を学びます。疾患ごと、頭頸部悪性腫瘍、聴覚、めまい前庭疾患、音声嚥下等、専門外来をローテーションし、各領域の代表的な疾患や、治療、経過観察での注意点などを指導医とともに経験することが可能です。入院、手術症例についても、各疾患に分かれた診療チームをローテーションし、入院管理、手術のプランニング、他科との連携などを通じて、個々の症例について深く検討します。診療チームは4つあり、すべてのチームに指導医が1名配置され、マンツーマンの指導を受けることができます。



《 基幹病院での週間スケジュール 》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
AM		めまい カンファレンス		研究ミーティング/ 抄読会	
	手術 (病棟業務)	<専門外来> 腫瘍・難聴 音声/睡眠	手術 (病棟業務)	<専門外来> 腫瘍・難聴 めまい	手術 (病棟業務)
PM					
	手術 (病棟業務)	<専門外来> めまい 突発性難聴	<専門外来> 中耳	病棟回診	手術 (病棟業務)
		腫瘍カンファレンス	小児難聴カンファ レンス	診療会議 症例検討会	
	若手勉強会		耳鼻科/歯科口腔 外科/放射線科/ 腫瘍内科合同 カンファレンス	医局会	

- 手術スケジュールは(月)、(水)、(金)で、4つの診療チームに分担される。予定手術がないチームは外来業務が予定される。
- 専門外来が(火)、(水)、(木)にあり、指導医とともに診療にあたる。
- これら診療チームと担当専門外来を、3～6ヶ月ごとにローテーションし、各種検査や疾患について研修する。
- 各種のカンファレンスで、ディスカッションを行うとともに、知識の整理を行う。
- 月曜日の夕方に若手専門医が研修医、専攻医の勉強会として、手術予定の症例や困難症例に関して論文の渉猟など含めた勉強会を行っている。
- 耳鼻咽喉科関連の研究会、勉強会をはじめ、国内外の著名な講師を招いて行われる講演会が、年に複数回行われる。
- 院内で行われる医療安全、倫理、感染対策などに関する講習会に参加する。
- 初年度研修の後半には、研究会または地方部会での発表を行うことを義務とする。
- 全体の研修(4年間)を通じて、論文執筆(筆頭著者として1編以上)を行う。

《 専門研修の方法 》

- 臨床現場での学習
 - 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンスを通して病態と診断過程を深く理解し、治療計画作成の理論を学ぶ。
 - 抄読会や勉強会での学習を通じ、インターネットによる情報検索を行い、臨床に反映させる。
 - Hands-on-trainingとして積極的に手術の助手を経験する。その際に術前の準備、およびイメージトレーニングを徹底し、術後の詳細な手術記録を作成する。
 - 手術手技をトレーニングする設備や教育ビデオなどを積極的に利用する。
 - 実際に術者として行った個々の手術記録を詳細・正確に記載し専門研修指導医の評価を受ける。
 - 主治医として治療した経験症例を症例記録簿に登録し、研修の記録を残し、未経験の症例がないよう専門研修指導医、プログラム統括責任者とともに調整する。
- 臨床現場を離れた学習

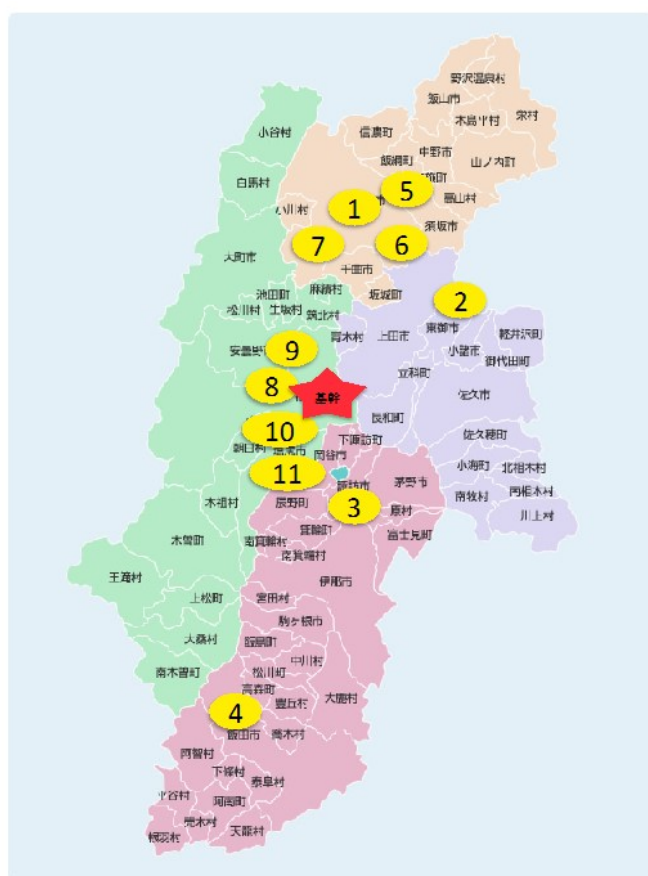
耳鼻咽喉科学会総会、専門医講習会、関連学会でのセミナー、講習会への参加、国際学会への参加を通して国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習する。さらに、専門研修委員会認定の医療倫理に関する講習会、医療安全セミナーやリスクマネジメント研修会、感染対策に関する講習会に参加し、研修記録に記録する。
- 自己学習

研修カリキュラムに示されている項目を全て説明、解決策などを提示できるように日本耳鼻咽喉科学会会報、Auris Nasus Larynx(日本耳鼻咽喉科学会英文雑誌)、耳鼻咽喉科学会・関連学会で作成されているガイドライン、英文雑誌、e-learningなどを活用して学習する。

信州大学 耳鼻咽喉科 専門研修プログラム
専門研修連携施設 指導医 一覧

※ 2017年(平成29年2月)現在

	施設名	指導医	役職	専門分野
基幹施設	信州大学医学部附属病院	宇佐美 真一	教授	耳科（中耳、人工内耳）
		工 穰	准教授	耳科、咽頭喉頭
		茂木 英明	講師	耳科、小児難聴
		鬼頭 良輔	助教	頭頸部腫瘍
		鈴木 宏明	助教	耳科、中耳
		塚田 景大	助教	鼻副鼻腔、めまい
連携施設	長野赤十字病院	根津 公教	部長	頭頸部
		大島 章	副部長	
連携施設	長野市民病院	横溝 道範	頭頸部外科 部長	頭頸部
連携施設	篠ノ井総合病院	浅輪 史朗	部長	鼻副鼻腔
連携施設	長野松代総合病院	福岡 久邦	部長	鼻副鼻腔、めまい
連携施設	国立病院機構信州上田医療センター	浅村 賢二	医長	頭頸部
連携施設	相澤病院	坂口 正範	統括医長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	安曇野赤十字病院	佐々木 由美	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	国立病院機構まつもと医療センター	後藤 昭信	医長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	諏訪赤十字病院	飯島 直也	部長	耳科、頭頸部
		我妻 道生	副部長	鼻副鼻腔
連携施設	岡谷市民病院	梅垣 油里	部長	耳鼻咽喉科一般
連携施設	飯田市立病院	塚本 耕二	部長	頭頸部
連携施設	国際医療福祉大学 三田病院	岩崎 聡	教授	耳科（中耳、人工内耳）
		鈴木 伸嘉	准教授	耳科、補聴器
		古舘 佐起子	医員	耳鼻咽喉科一般



基幹: 信州大学医学部附属病院

- 1: 長野赤十字病院
- 2: 信州上田医療センター
- 3: 諏訪赤十字病院
- 4: 飯田市立病院
- 5: 長野市民病院
- 6: 長野松代総合病院
- 7: 篠ノ井総合病院
- 8: 相澤病院
- 9: 安曇野赤十字病院
- 10: まつもと医療センター
- 11: 岡谷市民病院
- 12: 国際医療福祉大学 三田病院
(東京都港区)

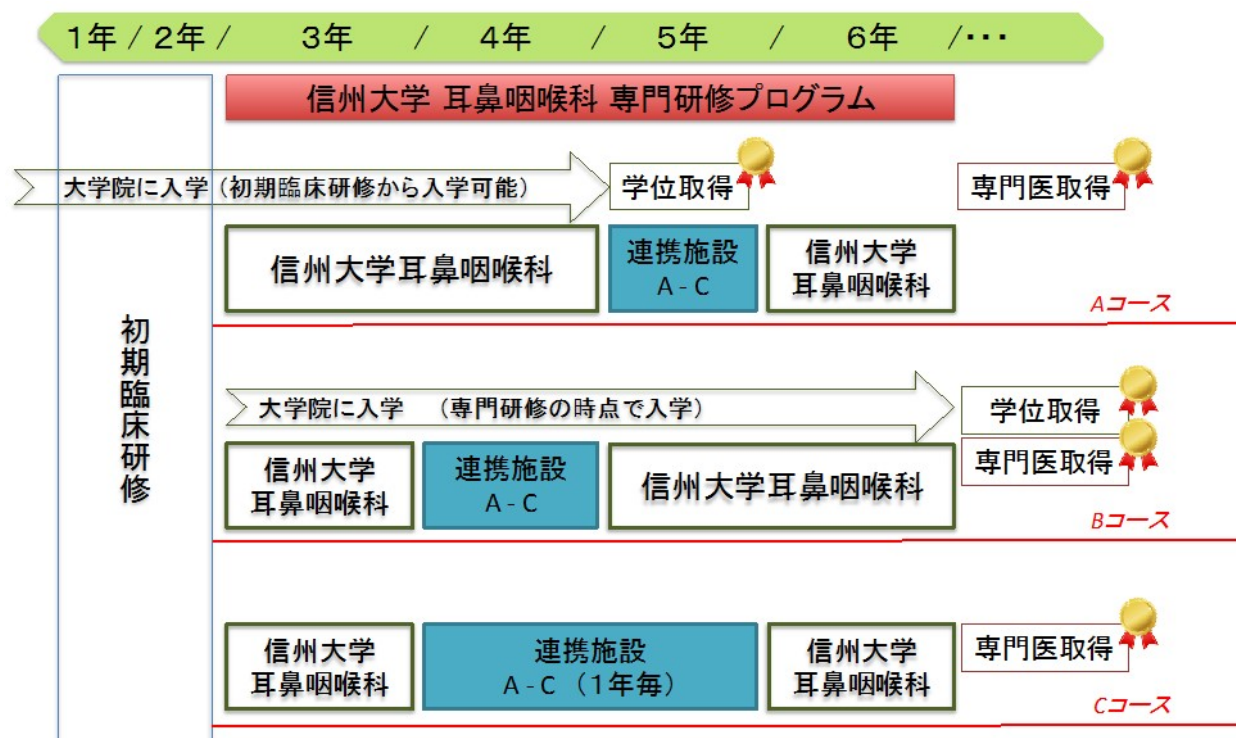
合計: 13施設



【年次毎の基本的研修プラン】

本研修プログラムでは、各専攻医の希望に沿ったキャリア形成を考慮し、専門医の必定条件を十分に満たし、かつ可能な限りフレキシブルな選択を可能にしています。

信州大学医学部の大学院は、初期臨床研修から入学が可能であり、そのための奨学金制度も用意されています。高いレベルの臨床医になるためには、基礎研究が必須であることから、大学院への進学を推奨しています。専門研修基幹施設での勤務中は社会人大学院生として、有給で研修と研究を行うことが可能です。大学院入学の時期により、学位取得の時期は流動的となります。例えば、初期臨床研修の時点で大学院に進学していれば、学位取得は専門研修中の4年目で可能となります。基本的には大学院と専門研修は同時進行で進めることにより、疾患や各症例に対する深い洞察力と問題解決能力を養います。



※あくまで研修コースの基本パターンであり、各専攻医の希望により、フレキシブルに対応可能。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

信州大学医学部耳鼻咽喉科学教室は、日本人における先天性難聴の原因遺伝子解析をはじめとするいくつかの研究プロジェクトがあり、世界トップレベルの研究が行われ、多くの新発見がなされております。その一部をご紹介しますが、これ以外にもPETによる難聴児の脳機能解析など多くの研究があります。

難聴の遺伝子解析

日本人における先天性難聴の原因遺伝子解析に関しては、世界一を誇るDNAサンプルライブラリを備えており、質・量とも世界トップレベルの研究が行われています。また、研究の成果を臨床に応用し、先天性難聴の原因遺伝子に関する遺伝学的検査（スクリーニング）を実施しています。この検査では、今までに日本人より見出されたすべての先天性難聴原因遺伝子変異を一度に調べることで、難聴の原因を特定することができます。難聴の原因が特定されることで、治療法の選択、予後の予測、発症の予防などのメリットがあるため、全国およそ50医療機関と共同研究の形で臨床応用が進められています。

頭頸部癌の遺伝子解析

癌の治療法には大きくわけて手術、抗がん剤、放射線治療の3つの方法があり場合によってはこれらを組み合わせて行う場合もあります。ところが同じように見える癌細胞でも抗がん剤が効く癌細胞もあるかと思えば、抗がん剤が全く無効であるばかりか副作用ばかりが目立つ場合もあります。同じように放射線の効果にも個人差があります。このような癌細胞の性質の違いがあるにもかかわらず従来は画一的な治療がなされてきました。我々のグループでは個々の癌細胞の遺伝子を調べることによってこれらの違いを明らかにしようという試みを始めています。将来的にはその患者さんの癌細胞の個性に応じた治療法を選択できるシステムを作ることを目指しています。

国内留学・海外留学

大学院を修了し、専門医も取得した後に、国外留学が可能です。出来るだけ全員留学することを目標としています。下記のような留学先があり、今後も増える予定です。

難聴原因遺伝子の解析

- Department of Genetics, Boys Town National research hospital, Omaha, Nebraska.(米国)
—Prof. Kimberling WJ
- Department of Medical Genetics, University of Antwerp, Antwerp.(ベルギー)
—Prof. van Camp G
- Department of Otolaryngology, University of Iowa carver college of medicine.(米国)
—Prof. Smith R

内耳の神経伝達解析

- Centre for Molecular Biology and Neuroscience, Institute of Basic Medical Sciences, University of Oslo, Oslo.(ノルウェー)
—Prof. Ottersen OP

将来の就職先など

県内ほとんどの病院が関連病院で、かつ常勤の耳鼻咽喉科医を必要としております。残念ながら、まだ大きな都市の総合病院でも耳鼻咽喉科の常勤医が不在なところがあり、今後2倍に増えたとしても充足できない状態ですので、就職先に困ることはありません。もちろん大学に残って研究を続けたり、開業することも可能です。

先輩からのひとこと

耳鼻咽喉科専攻医2年目医師(専門研修2年目)

初期臨床研修を終え、耳鼻咽喉科専攻医として大学での研修を行っています。まだまだ私にとって勉強中の手術である口蓋扁桃摘出術も数年上の先輩は華麗にこなしていきます。少しでも手術の技量をあげて、患者さんの笑顔をたくさん見ることが当面の目標です。最近ではめまい専門外来に配属されての指導も始まり、神経耳科の専門性に興味を引かれ始めています。耳鼻咽喉科はマイナーといわれますが、耳、鼻、咽喉頭、めまいとサブスペシャリティが大変広く、内容がまったく異なります。将来どのサブスペシャリストになるか、もう少し悩んでみようと思っています。

初期研修2年目医師

将来は手術で患者さんのQOLを高めることのできる耳鼻科医になることが目標です！耳鼻科で扱う手術は大変魅力があります。顕微鏡を使ったミクロな手術から、再建を必要とするようなマクロな手術まで行えること。また、経験数に応じた様々なレベルの手術手技があり、年数を重ねるごとにステップアップしていることを形として体感できることなどです。私は耳鼻科研修中に小児のアデノイド切除術を任せてもらうことができました。術後鼻の通りがよかった患児から「お母さんの作ったご飯の本当の美味しさが初めてわかった！」と言って貰えたことは、今まで一番の感激でした。初期臨床研修の選択科は将来耳鼻咽喉科医として臨床を行っていくうえで関連のある科を選択しています。将来像をまず描いてから初期臨床研修を開始できたので充実した研修生活を送れています。



連絡先

信州大学医学部 耳鼻咽喉科学教室 統括医長: 茂木 英明

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2666 ■FAX: 0263-36-9164

■E-mail: ijibi@shinshu-u.ac.jp

■U R L: <http://http://www.shinshu-ijibi.jp>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [耳鼻いんこう科]